



# すぎ七



## しなやかに生きぬく力

杉並区立杉並第七小学校

校長 齋藤 瑞穂

TEL 3392-6328

FAX 3393-7536

令和2年3月3日 No. 509

校庭の池の周りに子供たちがたくさん集まっていると思ったら、大きなカエルを何匹か捕まえて大はしゃぎでした。今年は例年よりも春の訪れがずいぶんと早まっているようです。杉七小にとっては90周年の、また平成から令和へと新たな時代が始まつた記念すべき年度も、終わりが見えてきました。

4月からは、新学習指導要領が完全実施となります。スムーズな移行のために、今年度は、特に「杉七タイム」のカリキュラム再編、外国語活動の時数増加に力を入れ、取り組んできました。本校の特色ある教育活動がより明確になったり、外国語科への準備が進んだりと、それぞれに成果をあげてきたところです。さらに来年度は、「プログラミング的思考を育てる学習」に積極的に取り組んでいきます。

「プログラミング教育」という言葉が先行していますが、小学校段階において学習活動としてプログラミングに取り組むねらいは、プログラミング言語を覚えたり、プログラミングの技能を習得したりといったことではありません。「小学校学習指導要領解説総則編」によれば、「児童がプログラミングを体験しながら、コンピュータに意図した処理を行わせるために必要な論理的思考力(=プログラミング的思考力)を育むとともに、プログラムの働きのよさや、情報社会がコンピュータをはじめとする情報技術によって支えられていることなどに気付き、身近な問題の解決に主体的に取り組む態度やコンピュータ等を上手に利用してよりよい社会を築いていくこうとする態度などを育むこと、さらに、教科等で学ぶ知識及び技能をより確実に身に付けさせること」がねらいです。

例えば、本校では、今年度5学年の算数で、「Scratch」というプログラミングソフトを用いて正多角形の作図に挑戦する予定です。これまでの学習で獲得した知識（正多角形は全ての辺の長さや角の大きさが等しい、など）を活用し、どんな命令をどんな順序でコンピュータに与えれば正多角形を描けるのか…子供たちは思考錯誤しながらプログラミングを行い、その過程を通してプログラミング的思考力を育むのです。

今、日本は、新型コロナウイルスの感染拡大を食い止めようと必死です。どんな対応が正解なのか、そもそも正解など誰にもわからない状況において、これまでの経験から、よりよい対応を模索している最中です。このように、子供たちが生きる未来も、予測困難な変化の激しい社会となることは間違ありません。答えのない問題、解決が難しい課題に対して、匙を投げたり人任せにしたりするのではなく、最適でなくともより適した解決策を導き出すために、失敗や成功を繰り返しながらその一つ一つを糧とし、論理的に組み立てて思考する力、そして、しなやかに生き抜いていく力——子供たちに必要とされている力は、まさにこのような力なのです。

保護者の皆様、地域の皆様には、今年度も本校の教育活動にご理解ご協力いただき、誠にありがとうございました。来年度は杉七小100周年に向けて、新たなスタートの年です。子供たちと共に、さらに輝かしい伝統を築いていくべく、教職員一同励んで参ります。どうぞ一層のご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

